

「みんなで踊ろう宿場をどり」をキャッチフレーズに、恒例の「第13回筑前木屋瀬宿場まつり」が、今年から11月の第一日曜日(六日)に変更になりました。

今年も福岡県無形民俗文化財に指定されている「木屋瀬盆踊(宿場をどり)」を中心として筑前各地の伝承盆踊りが披露されます。

回を重ねるごとに知名度も上がり、それぞれの地区で話題になり、この宿場まつりに参加することがその地区の年間予定に入っているようです。

また踊りだけではなく、色々な楽しいイベントも盛り沢山。前回とも面白いと評判だった仮装大会を今

寄せ太鼓

祭りは11月(第一日曜)
今年も盛大に盆踊りまつり!
踊りまくります!

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会広報部
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949



昨年の祭り風景

年も行きます。出場者には各賞様々な景品を用意しておりますので、奮ってご参加下さい。

その他、須賀公園では前回好評だったフリーマーケットを開催致します。是非覗いて見て下さいね。出店もたくさんありますので街



第13回筑前木屋瀬宿まつり実行委員会
企画委員長 藤 嘉量

なお、今回も木屋瀬宿記念館で宿場踊りの練習を行う予定です。後日回覧等でお知らせ致します。皆様にご参加下さい。

宿場まつりをより多くの人に知っていただく、よい機会だと思っておりますので、皆さんと力を合わせて頑張りたいと思います。



まつりのコマ



香月中学校吹奏楽部による開幕パレード

道を散歩するのも楽しいですよ。是非お越し下さい。



黒崎宿探訪(於黒崎城址)

郷土史料保存会の水上裕会長、同会の井上昭太郎副会長に講義をお願いしました。講座は9月2日から始まり、10月14日までの毎週金曜日に開催しました。

なお、昨年の講座の卒業生のうち、5名の方が木屋瀬宿まちなみ案内ボランティアとして現在活躍中です。今年のお誕生の中から、多数の方がまちなみ案内ボランティアに参加していただけるのではないかと期待しています。

〈講座「木屋瀬時代の散歩道」を開催〉

毎年恒例となりました、木屋瀬の歴史や文化を学ぶ講座「木屋瀬時代の散歩道」。木屋瀬についての知識欲を満たしたい方が年々増えているようで、三回目となった今年も「定員をオーバーするのではないかと」と事務局が心配するほどの申し込みが殺到しました。

今年の目玉は、何と言っても筑前六宿探訪でしょう。木屋瀬宿、黒崎宿の探訪の他、一日かけて、原田宿、山家宿、冷水峠、内野宿、飯塚宿を巡りました。

今年の講師陣は、九州大学の丸山雅成名誉教授をはじめ、本講座初参加となる九州大学大学院の中野等助教授、北九州史跡同好会の加藤芳人会長、飯塚の歴史を語る会「日有喜」の新原代表、宮崎副代表、嘉飯山郷土史会の則行幹事、そして木屋瀬みちの郷土史料保存会の水上裕会長、同会の井上昭太郎副会長に講義をお願いしました。講座は9月2日から始まり、10月14日までの毎週金曜日に開催しました。

なお、昨年の講座の卒業生のうち、5名の方が木屋瀬宿まちなみ案内ボランティアとして現在活躍中です。今年のお誕生の中から、多数の方がまちなみ案内ボランティアに参加していただけるのではないかと期待しています。



こやのせ座広場での講義風景

木屋瀬の思い出・昔ばなし

筑前木屋瀬宿の旅籠「筑後屋」と石橋応助



石橋史朗さん

(門司区在住・北九州市観光案内ボランティア 石橋史朗さんの投稿)

一行である。砂がまかれ掃き清められた道路に立って筑後屋の主人は、お供の武士達の宿泊の指示に大忙しである。筑後屋は木屋瀬宿八軒屋と言われた旅籠の真中に位置し、御茶屋(本陣)のすぐ前であった。明治24年の大洪水、40年の大火災で全焼し、宿帳を初め一切の記録をなくしてしまったのはこの筑後屋だけではない。

世は明治に移り参勤交代も無くなり、旅籠としての商いは困難になり、ハイカラな人力車を扱ったりもした。そして船での運送は利益も多く、筑後屋の嫡男

下にー下にー遠くから大名行列が近づいてきた。ここ長崎街道木屋瀬宿にお泊りの〇〇様

史料館アンケートから(抜粋)

子供達の声

●私は、ここに来たのは初めてです。一番おもしろかったのは、能面展です。「ちよつとこわいな」と思った面は3つあります。ししぐち(獅子口)、でいこ(泥虎)、やま(山姥)です。

八幡西区 永犬丸小4年 女児

●とってもおもしろかった。昔の人にかんしんしました。昔の人にとってチョコレートは、とってもこわかったと知りました。私は、チョコレートがきらいだけれど、昔

一般の声

●古文書教室に参加している私には、全館の展示物が有意義に感じられ、心から来て良かったと思います。

門司区 70代男性

●展示方法が子供に親しみやすい工夫がなされていて、飽きさせなかった。館内が明るかった。

広島県 40代女性

八幡西区 楠橋小5年 女児

石橋応助の時代はこの船頭をしたりしていた。時に明治38年、日露戦争真只中、場所を朝鮮と中国の境を流れる鴨緑江を渡る作戦に石橋応助は参加した。広くて満々たる大河で困難を要す。応助は川筋男の腕の見せ所と夜陰に乗じて泳いで渡り、敵の船を分捕り、その船で部隊は渡河に成功した。この功績を以って金鶏勲章功六級を受けた。木屋瀬に凱旋した応助はまさに英雄扱いとなり、大正座で連日連夜この芝居が上演されたと言う。当時筑後屋の石橋応助と言えは知らない人はいないと言われた程である。

何をかくそう、この筑後屋の主人は我が先祖であり、石橋応助は我が祖父である。今は代替わりして家屋敷も名義は代わっているが、子孫は健在である事も知って欲しいものである。

の人だったら好きだっただろうなと思いましたが。

「水石展」が終了しました!!

平成17年7月9日(金)～8月21日(日)まで、みちの郷土史料館・企画展示室において、企画展「水石展」が開催されました。



この企画展では、門司区在住の金出季治氏が所蔵する水石や掛け軸など、全142点を展示しました。

夏休み期間中ということもあり、館内は多くの来館者で賑わいました。期間中の来館者は、2,388人でした。ご来館ありがとうございました。

平成16年9月～平成17年8月までの木屋瀬宿記念館の利用状況

平成13年1月1日開館以来、多くの人に愛されています。(単位:人)

	みちの郷土史料館	こやのせ座など
平成16年		
9月	612	592
10月	897	1,065
11月	1,156	1,733
12月	351	1,331
平成17年		
1月	595	1,179
2月	519	335
3月	692	1,226
4月	904	1,024
5月	1,142	1,293
6月	489	884
7月	1,307	1,265
8月	1,603	1,301
合計	10,267	13,228

今後も、楽しく面白い企画を予定しております。皆様のご来館を心からお待ちしております。

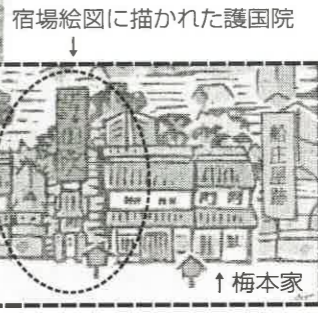
編集後記(独り言)

私は愛煙家です。今世界が環境問題に取り組み中で、多くの愛煙家にも厳しい環境になりました。公共の乗り物・建築物内での喫煙は勿論×。企業も、そして私については、家の中の喫煙も×です。でも喫煙しない人から見れば当然ですね。

「たばこやめよっかなあー」とも思いますが、一種の麻薬みたいな物で、たばこを吸っている時は癒しの時でもあります。なかなか禁煙できません。時代を感じさせるのが女性の喫煙者の多さです。少し前まではあまり見かけませんでした。昔よく言われた、「女性は吸って産むから喫煙はしない方がいい」という言葉は、現代社会には合わないのでしょうか。知っていますか?アメリカでは州によってたばこの値段がまちまちです。州によっては700円。びっくりしますね。もし日本も県によってそれぞれの値段をつけるとうどんでしようね? それからシンガポールではゴミをポイ捨てすると罰金があるそうです。愛煙家の皆さん、環境の為にたばこをポイ捨てはやめましょうね。

シリーズ 筑前木屋瀬宿 寺めぐり 第五回 天台宗 愛宕山護国院

そんな院がどこにあるの...と思わず顔をされる方もあるかもしれません。西溝口から少し黒崎方面へ行くと、市の有形文化財である、伊馬春部家があり、それを過ぎると江戸時代船庄屋を営んでいた梅本家があります。その左隣に鎮座されています。お地蔵さんが、今回御紹介する護国院です。このあたりを改盛町といいます。昭和二十四年木屋瀬を訪ねた伊馬春部の恩師であった、折口信夫はこの近辺の町の様子を次のような短歌に残しています。



宿場絵図に描かれた護国院



天台宗愛宕山護国院

「運がよければお寺も静かにてへば逃げらる 木屋瀬のむら」
このお地蔵さんは明応二年(一四九三年)香月の聖福寺の末として創建されました。当時木屋瀬は火災や疫病が多く源水法師の祈願によって平癒したそうので祈願寺として建立されたと伝えられています。

その後、火災や疫病、旅の安全、失せもの等に靈験多しとして、参詣者が絶えなかつたと伝えられています。

いた「木屋瀬宿之図」を絵馬として奉納しました。現在は市の有形民俗文化財として市の自然史・歴史博物館に保存されています。その後、大正七年隣の梅本家に逗留されていた仏画家堀尾水田画伯が、仏画完成後、梅本家の依頼によりその絵を模写し須賀神社参籠殿に奉納されました。現在「木屋瀬宿之絵図」として公開されたものはほとんどこの絵です。絵図に見ると愛宕さんは現在の位置より堤防より金色のお堂が描かれています。護国院は天台宗門派に属し本尊は將軍地藏で脇立不動尊、毘沙門天があります。現在は改盛町町内会が管理し、年に二回法要も行われています。愛宕さんは、各地に愛宕神社がありますように神仏習合の影響の強い院です。天台宗は最澄が開いた宗派ですが、鎌倉時代に比叡山で天台宗を学んだ、日蓮、法然、道元、親鸞聖人などの偉大な仏教者が出現し、あらゆる人が救われる道、人間の生き方を説くのが、仏教(釈尊の教え)であるとして、「正を知る」の心を説かれ「小欲知足」の生活を心がけるようにと諭されました。二千五百年まえの釈尊の教えは、二十一世紀の私達への教えでもあります。

今年も八月十三日の夕刻 木屋瀬宿記念館広場から響く「寄せ太鼓」の音に誘われ、思い々の浴衣姿で集まった踊り手たちは「庭寄せ」の総踊りの後、新町五町・本町六町の両盆灯籠会の二手に分かち合いました。今年も本町・新町ともに初盆家が少なくなりましたが、木屋瀬在住で亡くなった方で、事情により他所で初盆をされた二軒の初盆家の方には、お位牌とご遺影を須賀公園と長徳寺に夫々持参いただき「盆踊り」の初盆供養を致しました。両家の方々が、大変感謝された事が印象的でした。又、近年は、宿場踊り保存会(子供の部)の拡充や小学校の運動会に「宿場踊り」を取り入れるなどの保存・育成活動が功を為し、子供たちの参加が増え嬉しい限りですが大人の踊り手は依然少ないのが現状です。

「宿場踊り」の原点である 木屋瀬 盆踊り盆踊り供養盆灯籠会(うまのぼん)の善き伝統を後世に伝える為にも一人でも多くの参加を願う処です。尚、昨年より新町五町盆灯籠会では、盆踊りの慰労反省会を木屋瀬宿記念館のボランティア棟や広場を利用して行っていますが、今年も盆踊り参加者全員に声を掛け、パーベキューから揚げ・焼鳥・焼きそば等、手作り料理で、老若男女がともに和気あいあいとした宵の一時を過ごしました。最後に、初盆家には、志並びに手厚い接待を賜りました事、筑前木驛・茶目気一輪には、毎年参加記念の手作り団扇を提供いただきありがとうございます。又、木屋瀬宿記念館こやのせ座運営部会には恒例のカキ氷接待等ご協力いただきました事に、此の場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。



新町五町盆灯籠会 山田 靖

暑さを笑い音楽で吹き飛ばそう 落語とコミカルバンドの組み合わせは、こやのせ座発、世界初、と云う大層なフレコミどり、夏

観音さまと木屋瀬

観音菩薩は三十三身に姿を変えられ、あらゆる災難から信仰者を救われると言われ、近畿一円に観音霊場は三十三箇所に広がった。これを巡拝する風習も始まった。

壺坂寺や清水寺、石山寺や長谷寺と霊場は次々に有名になり、観音信仰は盛んになっていった。一千一体の千手観音を安置されている京都の三十三間堂もその象徴である。

木屋瀬には:

水源寺に祀られていた聖観音さまは、鎌倉時代、大唐安阿弥の直作と言われ北九州市の有形文化財に指定されているほど実に優れたご尊像である。深田区にも観音像がある。観音さまは、美しく彩色された小さな尊像であるが、長い歴史を共にされたかなり古いお姿である。村の中心に鎮座された村の田畑を見守っておられる姿に東大寺二月堂を想い出す。二月堂の本尊は観音さまであり、有名なお水取りは松明の火と若狭井の水に諸々のけがれを払い、豊作を願う農耕行事であったからである。



わたしの昔話

盗まれたと言われる。如意輪さまの額は近所に祀られていたのがここに奉納されたということであった。大きな力を授けて下さる十一面観音さま。財宝は意のごとく授けて下さる如意輪観音も今では絶えてしまったと言う淋しさが、清冷山お百度詣りの、念仏と鐘の音の中にあつた。

山浦と金剛杉谷には: 馬頭観音が祀られ往時最も必

柴田豊廣遺稿集より

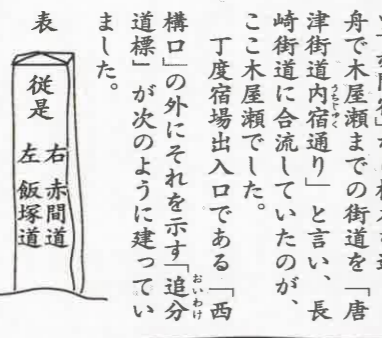
環境の事もしつかり勉強
今年のおやのせ座なばたまつりにあいにく曇り空で星空が観れないなばたまつりでしたが、多くの家族連れの方々、子供さんを集まっていたいただきました。

平成17年度 盆踊り 盛大の内に終了!!

今年も八月十三日の夕刻 木屋瀬宿記念館広場から響く「寄せ太鼓」の音に誘われ、思い々の浴衣姿で集まった踊り手たちは「庭寄せ」の総踊りの後、新町五町・本町六町の両盆灯籠会の二手に分かち合いました。今年も本町・新町ともに初盆家が少なくなりましたが、木屋瀬在住で亡くなった方で、事情により他所で初盆をされた二軒の初盆家の方には、お位牌とご遺影を須賀公園と長徳寺に夫々持参いただき「盆踊り」の初盆供養を致しました。両家の方々が、大変感謝された事が印象的でした。又、近年は、宿場踊り保存会(子供の部)の拡充や小学校の運動会に「宿場踊り」を取り入れるなどの保存・育成活動が功を為し、子供たちの参加が増え嬉しい限りですが大人の踊り手は依然少ないのが現状です。

「史跡」短見 その一 「追分道標」

江戸時代、筑前藩内の主要街道は二本でした。一本は、唐津から博多を通り赤間・若松・小倉迄の唐津街道。もう一本は、黒崎から木屋瀬を通り飯塚・佐賀・長崎迄の長崎街道。藩ではこの二本を「西往還」「東往還」と呼んでいました。その唐津街道の一つ「赤間宿」から植木を通り、舟で木屋瀬までの街道を「唐津街道内宿通り」と言い、長崎街道に合流していたのが、ここ木屋瀬でした。



裏 元文三年建

「是従」と下から上にかえつて読み、約二七〇年前の建立ですから、何万人となき旅人と会話を交した道標だろうと思えます。江戸時代の木屋瀬が、長崎街道筋でも人家多く栄えていたと書かれています。「追分宿」を示す「追分道標」なのです。来訪者に「追分」の語源をよく尋ねられます。荷物を

積んだ馬がこの分岐点に来ます。その荷物が赤間の方へその方向に馬を「ドウドウ」と追い分けるのが、この分岐点でありますので、「追分」と言い、交通史上その役を持つ道標であるので大切に扱ってきた訳です。ところが、この道標に災難が降りかかりました。昭和62年交通事故で根本からボッキリと折れたのです。そこで応急処置をして、須賀公園内にあった「北九州市立木屋瀬郷土資料館」の敷地内に移し、屋根覆いをして大事に保管してきました。しばらくして現地には寄贈によるレプリカが建てられ、本物は新しく建てられた北九州市立の「みちの郷土史料館」内に展示して今日に至っています。又の交通事故を避けながら、引き続き来館者と会話を交して建っているのです。